

税について勉強するきっかけ

所沢市立所沢中学校一年

廣瀬真未

私のお父さんは、サラリーマンだ。先日、私はお父さんの給与明細書を見てしまった。毎月月末になると「給与日まであと何日、節約しないと」とお母さんが言っているが、我が家には、毎月いくら入ってきて、いくら出ていっているのか、知らなかった。支給日の給与明細書を見ても、詳しい内訳まではわからないが、収入金額、控除額、差引支給額が記載されていたので、お母さんに聞いてみた。すると、お母さんはいいい機会だからと説明してくれた。

「収入金額はお父さんが1カ月働いてその成果として会社から支払われた金額（つまり、給与）で、そこから国のルールとして所得税・住民税と厚生年金保険料・健康保険料と、さらに万が一お父さんが亡くなった際等の保障のために生命保険に入っていて、その保険料等が控除額として引かれて、最終的に差引金額が銀行に振り込まれ、この金額が自由に使える生活費だよ。」

といわれた。私は、控除額について、どうなるのか不思議に思い聞くと、「所得税・住民税のような税金は、法律で給与をもらっている人には納税という義務があって、本人に代わって、会社がその分をちゃんと国に納めているのだよ」と教えてくれた。

あまり分からない顔をしていると、税金の使われている身近な例を話してくれた。

「子ども医療費補助といって、所沢市は中学3年生まで、病気やけがで通院や入院した場合でもお金を払わなくてもいいんだよ、税金の中から払ってくれているの。」また、「学校の教科書を見てみなさい。教科書の裏表紙等に『この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、国民の税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう』という無償給与制度の意義が書かれているよ。これだって税金で作られたものなの。」また、「田舎のおばあちゃんやおじいちゃんにも高齢者医療や介護という補助にも税金は使われているよ。」

「今、お父さんは健康で働けるから、税金を納めていて、それは我が家ではあなたたちの予防注射などに使われている一部なんだよ。」

と説明してくれた。私は、お父さんが納めている税金は、いろいろな人のために回っているんだなと感じた。

いろいろな税金があるが、国民みんながそれぞれの立場で公平にお金を分担しあって、子供やお年寄りのような立場の弱い人を助け、そして自分も今助けてもらっている。今の私は、まだ税について知らない事が山ほどある。まず税について「よく知り、理解する事」だと私は思った。少し気にかけるだけで、身近な所にも自分の知らない税に関する事が見えてくると思う。今から、しっかりと学び、「税を納める意味・大切さ」を理解し、納税できる人になっていきたい。